

公益財団法人富徳会 第12回定時評議員会議事録

- 1 日 時 2022年6月13日(月) 午後4時00分～午後5時19分
- 2 方 法 web会議
- 3 会 場 東京都墨田区横網1-2-26 ライオンパール共同ビル 富徳会事務所他
- 4 評議員現在数及び定足数 現在数5名 定足数 3名
出席評議員数 5名
(出席評議員) 藤田 雄三、朝田 芳信、眞木 吉信、向井 美恵、氏家 高志
(出席監事) 上林 博、大橋 常男
(出席理事) 小林 健二郎、柳橋 憲夫
(事務局) 武者 良憲、堤 憲子
- 5 議 案
決議事項 第1号議案 「2021年度事業報告及び決算報告の承認」の件
第2号議案 「富徳会フォローアップ助成実施の承認」の件
第3号議案 「理事の辞任に伴う理事選任」の件
報告事項 後記の通り
- 6 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

柳橋常務理事は、本日の評議員会は、web会議システムを利用した旨を述べ、出席者が一堂に会すると同時に、適時・的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。続いて、柳橋常務理事が出席者の確認を行い、評議員現在数5名のうち、5名全員の出席があり定款第26条第1項の規定に定める定足数を満たしており、本評議員会が成立する旨を報告した。

(2) 議長と議事録署名人の選出

柳橋常務理事から定款第21条2項により「評議員会の議長は、評議員の互選によって定め、その任期は評議員の任期期間とする」との定めがある旨の説明があり、続いて、議長の選出について諮った。その結果、藤田雄三評議員が互選により選出され、藤田議長により議事進行が行われた。ついで藤田議長が議事録署名人2名の選出について諮ったところ、朝田芳信評議員、眞木吉信評議員を出席評議員全員一致で議事録署名人に選出した。

(3) 議案の審議状況及び議決結果等

(決議事項)

第1号議案 2021年度事業報告及び決算報告の承認の件

議長の指名により柳橋常務理事から資料(事業報告及び決算報告:2021年4月1日から2022年3月31日まで)に基づいて詳細な説明がなされた。特に、正味財産増減計算書及び附属明細書において、2022年度に発行予定の書籍「人生100年時代における歯科学研究の役割と可能性-若手歯科学研究者へのエール-(仮題)」の作成と配布に係る費用として、書籍発行積立金1,000千円と過年度書籍発行積立金2,800千円の合計3,800千円を積み立てる旨の説明がなされた。

続いて議長の求めに応じて監事を代表して大橋監事より事業報告及び決算報告に関する監査の結果について、同資料13頁記載の監査報告書の内容に基づき報告がなされた。その後質疑が行われ、議長はその可否を諮ったところ、異議なく議案を原案通り出席者全員一致で承認可決した。

第2号議案 富徳会フォローアップ助成実施の承認の件

議長の指名により柳橋常務理事から配布した資料に基づき、富徳会フォローアップ事業の目的、内容、実施スケジュール及び予算について詳細な説明がなされた。

目的：①可能性を秘めた若手研究者の研究を資金面で継続的に支援し、将来的に歯科学研究及び歯科医療をリードする研究者の育成につなげる。

②若手研究者が研究者間及び研究者と社会のネットワークを構築するための機会を提供し、研究の進展と社会実装につなげる。

内容：過去に富徳会の研究助成に採択された研究者に対してフォローアップ助成を募集、3年間の継続助成とし、助成金は総額1,000千円を支給。併せて、助成金の贈呈式、研究報告会及び交流会等を開催し、研究者間及び研究者と社会との交流を通してのネットワーク構築の機会を提供する。3年に1度の実施とし、採択者は5名程度、選考委員会にて選考する。

実施スケジュール：準備が整えば2023年度から実施。

予算：7,200千円、3年に1度の実施であることから、2,500千円/年の積立で対応する。

なお、本事業は選考委員の負担が大きいため、選考委員会で丁寧に説明し、詳細を同意したうえで実施したい。

その後質疑が行われ、議長はその可否を諮ったところ、2023年からの実施に拘ることなく、応募資格、助成期間である3年間の研究継続をどのように担保するのかなどの課題を、選考委員と十分に意見調整することが必要であるが、フォローアップ助成事業は有用であるとのことで、異議なく議案を原案通り出席者全員一致で承認可決した。

第3号議案 理事の辞任に伴う選任候補の件

議長は、2015年から当財団の理事を務めていた井出吉信氏から、勤務先である東京歯科大学の学長を退任したことに伴い、理事の辞任届が提出されたことを告げた。続いて柳橋常務理事から、理事候補である東京歯科大学学長の戸達也氏について詳細な説明がなされた。その後、質疑が行われ、議長はその可否を諮ったところ、異議なく出席者全員の一致をもって戸達也氏を理事に選任することに決定した。

(報告事項)

小林理事長及び柳橋常務理事は、配布した資料に基づき、つぎのとおり詳細に報告した。

①2021年度事業計画及び事業予算の件

柳橋常務理事から、資料（2022年度事業計画、事業予算）に基づいて当該年度の事業計画と事業予算について詳細な説明がなされた。事業予算においては、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないことに加えて、原油をはじめとする資源高、ウクライナ情勢等の不確定要素が多く、世界経済の行方が不透明であることから、債権・投資信託による収益は減少すると考えられるが、保有株式の配当が維持されることから前年度並みの収益は確保できる見通しである。当期の経常収益を前期より105千円少ない16,672千円とすること、経常支出は会議費等の削減により、昨年度より370千円減の14,328千円とすることが説明された。併せて、助成事業を安定的に継続するため、分散投資による価格変動リスクの低減、保有資産のポートフォリオによる新たな資産運用を検討する旨の報告がなされ、出席者全員が了承した。

②2022年度研究助成の応募状況について

新型コロナ禍での募集は3年目となるが、今年は特に応募の立ち上がりが遅いため、過去の推薦者等に対して郵便、メール等で推薦の働きかけを行った。その結果、昨年よりは少ないものの合計72件の応募となった。なお、海外歯科保健医療活動部門について

は、新型コロナの影響により2年連続で海外での活動が出来ないことから、今年度の応募はゼロとなったため、理事会の承認を受けこの部門の助成枠を他部門に振替え、どの部門に振替えるかは選考委員会で協議したい旨を報告し、出席者全員が了承した。

③その他報告事項

新型コロナの影響で延期していた財団設立50周年事業については、感染状況が落ち着いてきたとは言えるものの、収束は見通せないことから、メインの事業である学会でのセミナーは中止し、セミナーの主旨を盛り込んだ書籍発行とホームページへの掲載に変更する。この書籍は2022年度の発行を予定しており、その表題は「人生100年時代における歯科学研究の役割と可能性-若手歯科学研究者へのエール-(仮題)」とし、若手研究者に対する先輩の研究者からのメッセージと過去50年間の助成者一覧で構成され、広く関係者に配布する予定であり、理事、評議員および選考委員の先生方に寄稿をお願いしたい旨を説明し、出席者全員が了承した。

以上、web会議システムを用いた理事会は、終始異状なく、議案の審議及び報告事項の説明がなされ、全員が了承した。

以上をもって、全ての審議並びに報告を終了し、午後4時58分議長は閉会を宣した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席の代表理事及び監事は次に記名押印した。

2022年6月15日

議 長

藤田 雄三



議事録署名人

朝田 芳信



議事録署名人

眞木 吉信

